

3 富士山の世界文化遺産登録に向けて

静岡県からのお知らせ

『富士山世界文化遺産国際シンポジウム』を開催しました

富士山の世界文化遺産登録実現のためには、富士山に世界文化遺産にふさわしいすばらしい価値（以下『顕著な普遍的価値』という）があることを証明する必要があります。

富士山の『顕著な普遍的価値』つまり、富士山が象徴する「なにか」を探るために、国内外から世界遺産専門家を招へいし、国際シンポジウムを開催しました。



【クリスティーナ・カメロン氏】



【ノーラ・ミッチェル氏】

また、国内からは「紀伊山地と霊場の参詣道」の世界文化遺産登録に尽力された田中利典氏（金峯山修験本宗宗務総長、金峯山寺執行長）静岡県学術委員会委員の稲葉信子氏（筑波大学大学院教授）の2氏を招へいしました。

海外からは、「第32回世界遺産委員会」で議長を務めたクリスティーナ・カメロン氏（モントリオール大学教授）、富士山の世界文化遺産登録の重要キーワードである「文化的景観」に造詣の深いノーラ・ミッチェル氏（バーモント大学客員准教授）の2氏を招へいしました。



【田中利典氏】



【稲葉信子氏】

国際シンポジウムで貴重な意見・提言をいただいたので、その内容を紹介します。

富士山の象徴性

- ・日本人が自然に対し抱いてきた「自然観」「自然に対する畏怖」「神仏に対する神聖な思い」これらすべてが富士山に集約されていること

富士山の価値

- ・「富士山」という自然に「信仰」「芸術性」といった文化が反応している点（このことが、ユネスコの「評価基準」の「(iii) 文化的伝統の物証」「(vi) 信仰・芸術との強力な関連性」に該当すると思われること）

富士山の保存管理

- ・「関係者の協力体制」「観光産業の管理」「関係者全員の『世界遺産を守る担い手(第一の門番)』としての自覚」の3点が大切なこと

富士山への提言

- ・富士山の世界文化遺産登録に向けた取り組みが『日本人が失いつつある「信仰心」「自然観」を取り戻すきっかけ』となれば、大きな意義があること
- ・世界遺産登録は「ゴール」でなく、私たちの富士山の保護・保全の「スタート」であること



パネルディスカッションでさまざまな意見・提言がなされた



会場は約300人の参加者の熱気に包まれた



シンポジウムの開催に先立ち「柿田川」などの資産候補も視察

今後の取り組み

今回いただいた意見を基に、現在選定されている構成資産候補について、「信仰」「芸術性」の観点から幅広く綿密に、改めて調査・検証を行い、世界遺産委員会に対して説得力のある「世界遺産推薦書原案」を作成します。